

守れ 泰山荘

国際基督教大学で 文化財の保存を呼びかけた学生イベント開催されました

国際基督教大学で、国の登録文化財・泰山荘の保存を呼びかけた学生のイベント「泰山荘のゆふへ」が5月29日・30日に行われました。当日は、午後6時から茶室「高風居」が開かれたの続き、夕暮れの中、ライトアップされた中庭で、「和」の出し物を中心としたパフォーマンスが繰り広げられ、多くの人が楽しみました。富士山を望む野川沿いの急斜面上に泰山荘が建てられたのは昭和10年代、旧日産財閥の資産家によってでした。

時代の流れと共に同大学の所有物となつた泰山荘。現存する6つの建物が高風居文化財です。特に貴重なのが坂の中腹にある高風居と二書敷で、普段は立ち入りが禁止されています。一書敷は北海道の名付け親の探検家・松浦武四郎が国の木材を集めて明治19年に建てた書齋で、隣接する高風居は徳川頼朝が一書敷のために建てた建物です。

高風居は雨漏りが激しく、数年前からかやみ屋根の雨漏りを防ぐため、トタン屋根で覆っている状態でした。

そんな状況を見て立ちあがったのが、同大産部の有志5人。昨年の11月に「泰山荘プロジェクト」を発足し、活動を開始したのです。

大学の許可を取って定期的に清掃、寄付を募つての障子や畳の張替え、おかげで大変なほど、この貴重な場所を茶会を開くことができました。メンバーも茶道部に以外と広がっています。

今回の企画は、そんな泰山荘の魅力と可能性を多くの人に知って



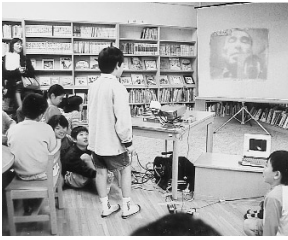
トタン屋根で覆われた「高風居」

泰山荘は本祭などで一般公開されるほか、申し込みにより見学することも可能です。くわしくは、同大産部課 3030へ。また、泰山荘プロジェクトに賛同して下さる方の寄付を募っています。同大広報センター 333-3041へお問い合わせください。

学校・家庭・地域連携インターネット

「さむぎんぐネット」

5月17日に第一小学校で、イントラネットを使った公開授業が行われました。今年度から年間、市立立小・中学校で行われる「学校・家庭・地域



離れていても顔を見ながら話せます



イントラ掲示板に「自分の言葉で思いを伝えるのは楽しい」



PDA(円内)を使って来校者にインタビュー

5月1組では、社会科で「米作り体験」をテーマに、小田原市「小田原村」の稲作の様子を撮影し、この日は、地元で取り組みを発表。この日は、地元で稲作の様子を撮影し、この日は、地元で

取り組みが、3つのクラスの公開授業という形で具体的に発表されました。5月1組では、社会科で「米作り体験」をテーマに、小田原市「小田原村」の稲作の様子を撮影し、この日は、地元で取り組みを発表。この日は、地元で

「終わらない旅と夢」

冒険家・河野兵市さん 一周忌に 妻 順子さんが 手記を出版

昨年5月、北極圏から徒歩とシカヤックで故郷の愛媛県宇和島をめぐり1万5千キロの旅「リターンホーム」の途中、北極海で遭難した冒険家・河野兵市さんの妻、河野順子さん(井の頭在住)が、一周忌の5月17日に「河野兵市さんの終わらない旅と夢」(河野書房新社)を出版しました。

同書は、順子さんが兵市さんと出会ったバキスタンのナンガパルバット登山から14年経つた冒険と、それを支えた家族のエピソードを綴ったもの。

最後の旅となった「リターンホーム」は、19歳での自転車日本一周に始まり、南北アメリカ大陸最南端の登頂、リキヤカを引いてのサハラ砂漠横断、日本人初の北極圏単独徒歩到達など数知れぬ冒険の集大成といえるものでした。順子さんは同書に、「いずれ、どのような形であつても、私と子どもたちで、このリターンホームの旅を引き継ぎたい」と計画しています。

「杉浦茂」

6月6日(日)まで開催中



主催 三鷹市美術ギャラリー
協賛 筑摩書房
会場 三鷹市美術ギャラリー
開催期間 6月6日(日)まで
休館日 月曜日
開館時間 午前10時～午後8時
入館は午後5時30分まで
観覧料 一般90円/学生・中高大30円/65歳以上・小学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料
※この記事を切り抜いた展覧会にお持ちください。2人まで一般入場料300円を前日に引きます。

三鷹市美術ギャラリー
JR三鷹駅前(南口) CORAL5階
☎9-0033 http://mitaka.jpn.org

図書館の本棚から

「評伝・太宰治を読む」
三鷹ゆかりの作家・太宰治の作品は、今も時代を超えて広く人々に読まれ、太宰に関する研究・評論などの図書も数多く出版されています。今回は平成12年以降に出版された太宰治に関する本の中から5点を紹介します。

◆「評伝・太宰治」 日本近代文学館 筑摩書房
津軽・金木の家で生まれ、玉川上水での死に至るまでの39年間を写真、手帳、肉筆原稿などの資料多数で紹介。数々の作品を生み出した太宰治の鮮烈な生涯のすべを辿る1冊。
◆「津軽・斜陽の家」 鎌田慧著 祥伝社
太宰治の現生家として観光客に親しまれる。戦前は豪華を誇っていた津島家は、戦後、農地改革により没落し、豪邸も手放すことになる。
◆「桜桃とキリスト」 長部日出雄著 文芸春秋
「作家を主人公にした評伝の最終目的は、その原典に対する興味を呼び起こすことにある。太宰の作品を向ける読者がふえることが筆者にとって至上の喜びである。」と太宰と同郷の直木晋作家が、太宰の絶頂期から玉川上水での心の中で描いた太宰治評伝の決定版。
◆「ピカレスク×太宰治」 猪瀬直樹著 小学館
「井伏鱒二は悪人です。太宰治の遺書の下書きの中から、太宰と長い間師弟関係にあつた井伏鱒二について衝撃的な一句が見つかった。太宰治中心事件にかかわる遺書に込められた謎にノンフィクション作家・猪瀬直樹が迫る本格評伝ミステリー。
◆「斜陽・大活字文芸選書」 太宰治 三心堂出版社
太宰治は、すぐれた物語作家として数多くの作品を世に残している。これらの作品は現在、全集や文庫スタイルなどで人々に読まれているが、本書はB6サイズで字が普通より大きく読みやすい大型活字本による1冊。
※三鷹図書館(本館)と西部図書館は、6月3日(月)～14日(日)の期間、蔵書点検のため休館します。この期間中は他の図書館分館をご利用ください。
三鷹図書館 ☎43-9151

お詫びと訂正

5月19日発行の「広報みかた」12面「チケットインフォメーション」の記事の中で、綾戸智絵さんの記事に誤って秋吉敏子さんの写真が掲載されておりました。お詫びして訂正します。なお、綾戸さん、秋吉さんのコンサート情報は、今号8面の「チケットインフォメーション」をご覧ください。
広報課 ☎6内線2133



綾戸智絵さん
秋吉敏子さん